

令和7年度 学校評価(教諭)

対象学部【教諭】 n = 75 / 81 92.6

回答者数 教諭数 %

No	評価項目	具体的評価項目	回答者数				教諭数			%表示			(良好: 要改善: 無回答:)
			1 十分	2 やや 十分	3 やや 不十分	4 不十分	1,2 良好	3,4 要改善	無 回答	1,2 良好	3,4 要改善	無回答	
1	学校教育目標	学校教育目標の具現化へ向け教職員が一体となって取り組んでいるか。	33	39	3	0	72	3	0	96	4	0	
2	教育課程	教育課程は、児童生徒の実態等に即し、適切に設定されているか。	29	38	8	0	67	8	0	89	11	0	
3	初任者研修	初任者研修の目的達成のため、拠点校指導員、指導教員を中心に組織的な指導体制ができていますか。	54	18	1	0	72	1	2	96	1	3	
4	年間指導計画	年間指導計画は、児童生徒の実態等に即し、適切に設定されているか。	37	37	1	0	74	1	0	99	1	0	
5	個別の教育支援計画	個別の教育支援計画は、保護者や関係機関等と十分連携が図られ作成されているか。	49	25	1	0	74	1	0	99	1	0	
6	個別の指導計画	個別の指導計画は、児童生徒の実態等に即し、適切に設定されているか。	44	28	2	0	72	2	1	96	3	1	
7	教育計画	児童生徒の実態等に即し、目標や支援方法等に関して、学部や学年会・教科会・等において教育計画が十分話し合われているか。	48	25	2	0	73	2	0	97	3	0	
8	指導体制	学年や学習グループ等で教材研究や指導法等を共通理解し、教職員間で連携を図りながら授業に臨んでいるか。	47	23	4	1	70	5	0	93	7	0	
9	学習指導	教職員は児童生徒の実態に応じた教材教具等を工夫し、分かりやすい授業展開をしているか。	40	33	2	0	73	2	0	97	3	0	
10	学習指導	教職員は児童生徒1人1人との信頼関係を深めることができている。	44	31	0	0	75	0	0	100	0	0	
11	家庭との連携	教職員は保護者等に対し、児童生徒のニーズ等を捉え連携を図り、説明責任を果たす等の対応がなされているか。	52	23	0	0	75	0	0	100	0	0	
12	関係機関との連携	教職員は関係機関等に対し、児童生徒の実態やニーズ等を捉え連携を図っているか。	50	25	0	0	75	0	0	100	0	0	
13	交流教育及び共同学習	教職員は保護者との協力のもと、学校間交流や居住地校交流等を推進しているか。	42	26	7	0	68	7	0	91	9	0	
14	就学支援及びセンター校的役割	本校は校内及び地域のセンター校的役割を担い、就学支援や教育相談の充実に努めているか。	45	28	0	1	73	1	1	97	1	1	

15	進路指導	本校では卒業後に向けた課題意識や就業体験等適切に取り組まれているか。	44	28	3	0	72	3	0	96	4	0	
16	校内研修	本校では、より専門性を発揮するための研修や教材研究等が充実している。	49	23	3	0	72	3	0	96	4	0	
17	自立活動	本校では、自立活動に関する支援体制や教材教具の工夫、ICT機器の活用、各教科との関連など共通理解が図られて実践されているか。	43	28	2	2	71	4	0	95	5	0	
18	校務分掌	学級担任、校務分掌等が適材適所に配置され、機能化された運用がなされているか。	35	34	4	2	69	6	0	92	8	0	
19	職員会議等	職員会議等の諸会議は、学校運営や学部運営等を共通理解し、効率的に機能しているか。	43	30	1	1	73	2	0	97	3	0	
20	緊急・救急体制	非常時及び緊急時に敏速かつ適切な対応ができる体制になっているか。	47	25	3	0	72	3	0	96	4	0	
21	健康・安全・給食	児童生徒の健康・安全・給食指導に関して、各部署と連携を図りながら十分配慮された取り組みがされているか。	54	18	3	0	72	3	0	96	4	0	
22	教育環境	校内緑化や危険箇所のチェック、職員の対応等、教育環境が充実しているか。	53	21	0	1	74	1	0	99	1	0	
23		同僚・管理職との良好な人間関係の構築ができています。	48	26	1	0	74	1	0	99	1	0	
24	職場環境	心身の健康の確保と安全・快適な職場環境の形成ができています。	46	22	6	1	68	7	0	91	9	0	
25		個人の裁量(ゆとり)ある時間が確保できている。	31	24	16	4	55	20	0	73	27	0	
26		教育活動に必要な施設・設備は充実しているか。	24	30	17	4	54	21	0	72	28	0	
27	施設・設備	図書室は、児童生徒が利用しやすいように、本の紹介や書架の整理、掲示等が工夫されていますか。	58	17	0	0	75	0	0	100	0	0	
28		図書室には、職員が必要とする専門書や資料等が充実していますか。	33	39	2	1	72	3	0	96	4	0	
29		児童生徒の円滑な給食運営に関して、栄養士や教諭等と連携がとれていますか。	54	19	2	0	73	2	0	97	3	0	
30	PTA活動	保護者と職員が協力し、充実したPTA活動として取り組まれているか。	45	26	4	0	71	4	0	95	5	0	
31	職員間の連携	各学部や各部署の連携が図られ、組織として一貫性のある取り組みがされているか。	35	35	4	0	70	4	1	93	5	1	
32	いじめ	日頃よりいじめの実態把握に努め、児童生徒が発する危険信号等を見逃さないようにして早期発見に努めているか。	51	23	0	0	74	0	1	99	0	1	
33	人権侵害防止	児童生徒に対する不適切な言動や不適切な指導等の実態把握に努め、早期発見早期対応に努めているか。	49	25	1	0	74	1	0	99	1	0	

考 察

良い点	<p>◎全体として高評価(多くが90%以上「十分・やや十分」) 特別支援学校としての専門性や協働、個別支援、年間指導計画など、教育の根幹部分は極めて安定している。 特に肯定率が**100%**の項目:児童生徒との信頼関係(No.10)、家庭との連携(No.11)、関係機関との連携(No.12)、図書室の児童生徒向け利用整備(No.27)、教育者としての姿勢・連携・児童生徒理解は非常に高い水準。</p> <p>・教職員同士の協力体制が強く、相談しやすい職場風土が形成されています。学年・学部・支援部との連携、ケース会議の活発な実施、個別支援の丁寧さなど、特別支援学校としての専門性が高く、進路指導・自立活動などにも前向きに取り組む姿勢が見られます。</p>
改善点	<p>◎比較的評価がやや下がる項目(それでも7割前後は肯定) 以下の項目が60~70%台と相対的に低め:適材適所の校務分掌(69%:No.18)、職員の心身の健康・職場環境(68%:No.24)、個人の裁量時間・ゆとり(55%:No.25 → 最低値)、施設・設備の充実(54%:No.26 → 第二の低値)、共同学習・交流教育(68%:No.13)</p> <p>・自立活動の共通理解・ICT活用(71%:No.17)業務量の偏りや研修・行事の多さ、教材研究の時間不足、教室・設備の不足が大きな課題です。学部間の教育課程や自立活動の接続、交流学習の適正化など、継続的に見直しが必要な領域も示されました。</p>
今後の方針	<p>◎最優先:業務改善(ゆとりの時間の確保):●校務分掌の見直し ●業務のデジタル化加速 「ノー会議デー」を設定 ◎第二優先:教員の健康管理とメンタルケア、◎第三優先:設備改善・ICTの強化、◎第四優先:交流教育の強化、◎第五優先:自立活動・ICTの共通理解の深め方</p> <p>・働きやすい環境づくりを進めながら、教育課程や自立活動の共通理解を深め、学部間のつながりを強化する。施設・設備の整備については県への要望を進め、行事・研修の精選など働き方改革にも取り組む。児童生徒により良い教育を提供し続けられる組織づくりを目指していく。</p>